



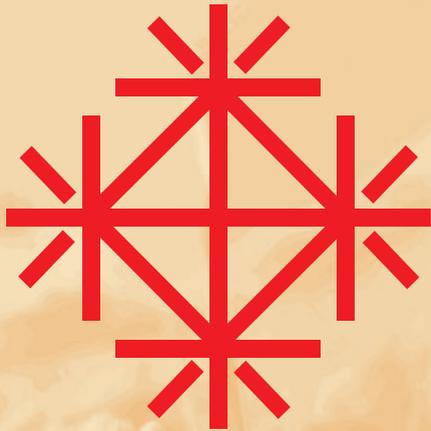
**KITOKU
SHINRYO**

第60期
株主通信

平成19年1月1日～平成19年12月31日

木徳神糧株式会社

TOP INTERVIEW



【企業理念】

誠意と感謝の気持ち
クオリティの追求
新しい価値の創造

CONTENTS

- P.01 トップインタビュー
- P.04 木徳神糧アレコレ通信
- P.05 トピックス
- P.06 事業の概況
- P.07 連結財務諸表
- P.09 単体財務諸表
- P.10 会社概要



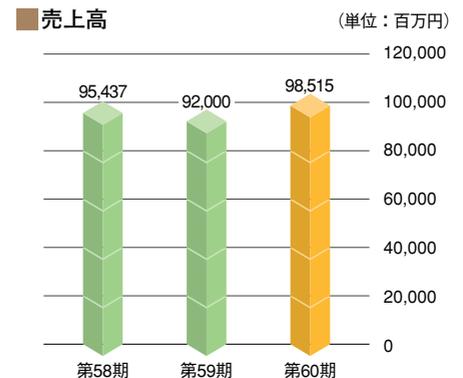
代表取締役社長

平山 啓一

第60期決算の業績に加え、木徳神糧が今後取り組む経営課題について平山社長に聞きました。

第60期の業績についてお聞かせください。

当連結会計年度におけるわが国経済は、高水準の企業収益や雇用者所得の緩やかな増加を背景に、設備投資や個人消費も増加基調にあり、景気の堅調を示す指標がある



一方、米国サブプライムローン問題に伴う国際金融市場混乱の長期化や原油、原材料価格の高騰、さらに建築基準法改正に伴う住宅投資の冷え込み等により、景気の先行きが不透明な状況へ変化してまいりました。

当社グループの関連業界におきましては、米穀業界では米の長期的な消費の減退、生産過剰による価格の低下傾向が継続していることに加え、主要販売先である小売業や外食産業の競争激化等により、依然として米穀事業の収益確保について厳しい状況が続いております。また、食品業界では穀物相場の高騰、生産資材の価格上昇が原材料価格や生産コストの大幅な増加に繋がることにより、食品事業や鶏卵事業を取り巻く経営環境は一層厳しくなっております。

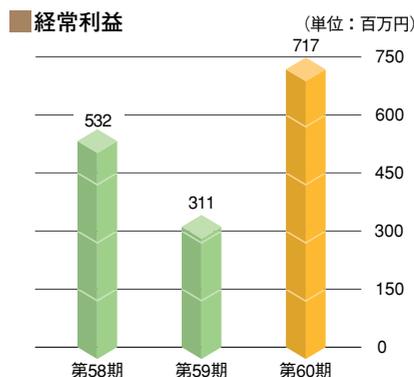
このような状況のなか、当連結会計年度の業績につきましては、主として米穀事業における玄米・精米の販売数量の増加により、売上高98,515百万円（前年同期比7.1%増）となりました。また、米穀事業での製造コストの低減に加えて、グループ全体の販売費及び一般管理費の削減を強化

した結果、営業利益831百万円（同92.4%増）、経常利益717百万円（同130.5%増）となり、固定資産売却益等の特別利益がある一方、子会社の(株)ライスピアの清算に伴う費用や投資有価証券の評価損、固定資産売却損等の計上があり、当期純利益715百万円（前年同期は1,212百万円の純損失）となりました。

来期の見通しについて

次期のわが国経済の見通しにつきましては、米国サブプライムローン問題に伴う国際金融市場混乱の長期化や原油、原材料価格の高騰が継続していることから、足元の景気は減速感を強めております。

当社主力である米穀事業におきましては、人口の減少や少子高齢化の進行等により米消費量の回復を見込めない状況のなか、農水省が昨年発表した「米緊急対策」による需給の変動や平成20年産米に向けた生産調整強化の効果が不透明であるほか、小売業等におけるグループ事業の統



(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

合や企業買収の進行により納入価格の競争が激化していること等により、米穀卸会社にとって依然厳しい経営環境にあります。また、鶏卵事業並びに鶏肉の販売につきましては、世界的な飼料穀物の需給事情により配合飼料価格の高騰が今後も継続される可能性が高いため、一段の生産コストの負担増加に対し販売競争が激化しており、極めて厳しい状況にあります。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、主力の米穀事業においてグループの営業力の強化、製造コストダウン、販売・管理コストの削減による競争力の向上を図りながら、既存マーケットでの販売数量の拡大、既存取引先におけるシェアの拡大、新規取引先の獲得に注力してまいります。また、マーケットの成長を見込める機能性のあるコメ加工食品分野において商品開発の強化、販売エリアの拡大を積極的に取り組んでまいります。

平成20年12月期通期の業績見通しにつきましては、売上高92,897百万円、経常利益616百万円、当期純利益564

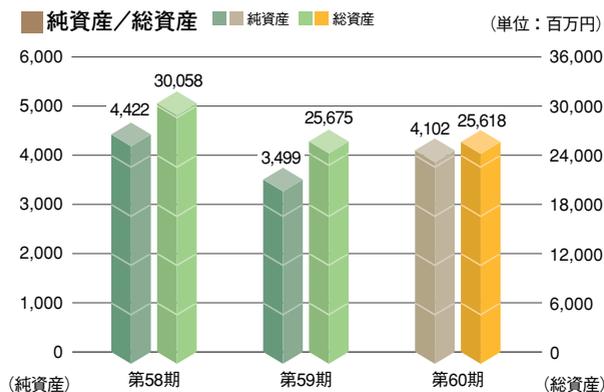
百万円を予想しております。

株主の皆さまへメッセージをお願いします。

期末配当金につきましては1株につき普通配当2円及び創業125周年記念の配当2円の計4円とさせていただき、中間配当金2円と合わせて年間配当金は1株につき6円となりました。また、次期配当金につきましては、1株につき年間4円（中間配当2円、期末配当2円）を予定しております。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成20年3月



来期業績見通し

売上高

92,897 百万円

経常利益

616 百万円

当期純利益

564 百万円

木徳神糧の〇〇が知りたい! Q&A

Q. 木徳神糧の環境に対する考え方を教えてください。

A. 木徳神糧の環境に対する考え方の基本は、「環境と品質は表裏一体」ということです。つまり、品質を良くすることは同時に環境も良くなるという考えであり、工場での無駄・無理を無くすことで、エネルギーの効率的な利用・廃棄物の削減に取り組んでいます。

平成19年度の取り組み

● 品質管理の強化

専任の管理者を置き、全ての工場での管理ポイント・手法を統一することで、原材料の受入～出荷までの判定基準を明確にし、品質向上への対策を実施しました。

● 無洗米の拡大

仙台工場に無洗米設備を導入し、東北地区への供給量を増やしました。

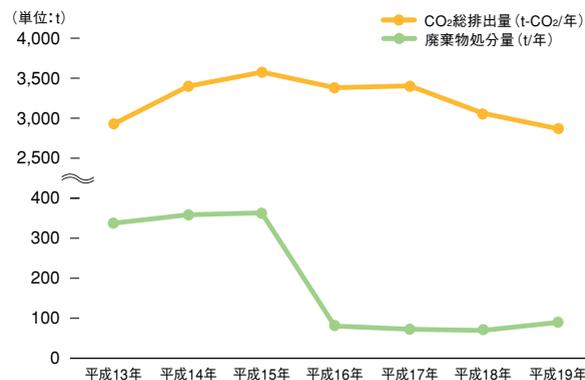
● 衛生管理の強化

工場内で発生する虫対策を全社的に行き、稼働停止日を設定し、徹底した清掃で夏場の虫の発生防止を行い、最小限の薬剤使用に留めました。

製造拠点のISO取得状況(平成19年)



桶川工場におけるCO₂排出量



桶川工場では、CO₂排出量の抑制に取り組むとともに、廃棄物処分量の削減に努め、その成果を着実に上げています。

「おいしく健康に」をテーマに新製品を開発しています。

お祝い越後ごはん



お正月やお盆など、お祝いのお食事に色を添えるお赤飯。「お祝い越後ごはん」は、お祝いの席を華やかに彩るために「あればいいなあ」というお客様の声にお応えして開発された小豆入りの赤飯風・越後ごはんです。

お米の中のタンパク質をゆっくりと確実に抜き取る独自の植物性乳酸菌発酵熟成法でじっくり炊き上げました。さらに、越後ごはんに小豆を加えることでより美味しく見た目にも満足できるごはんを炊き上げました。

たんぱく質調整 純米せんべい

国内産のたんぱく質調整米を使用したおせんべいです。ふっくらひと口サイズに焼き上げられ、とても食べやすいのが特徴です。味つけは、極力塩分をおさえて甘辛味に。食事療法中のおやつタイムにもぴったりです。



味は、新鮮な海老をたっぷり用いてふわっと豊かな香りの「海老味」、厚めの生地とうまみがキュッと引き締まったシャープな味わいの「サラダ味」、まったりとした甘醤油タレが濃厚な味わいを醸し出す「甘醤油味」の3種類です。

株主優待のお知らせ

1,000株以上保有の株主及び実質株主の皆さまに対し、当社の米穀製品を贈呈いたします。
(年2回実施)

平成19年12月31日現在の株主の皆さまには、新米入りの「米浪漫」300g入り8袋、新米の「新潟県魚沼産こしひかり」2kgの詰め合わせで贈呈いたしました。

6月30日現在の株主の皆さまには
一律
2,000円相当

12月31日現在の株主の皆さまには
一律
3,000円相当



「米浪漫」300g×8袋
「新潟県魚沼産こしひかり」2kg×1袋

BUSINESS REVIEW

米穀事業

米穀業界は、卸会社の全農からの仕入が相対取引主体となったこと等により、コメ価格センターでの積極的な入札が行われず、落札価格は小幅な動きで推移しました。また、平成19年産米は、早場米に台風被害が発生したものの、全国平均の米穀作況指数は99「年並み」となりました。しかしながら、生産目標数量に見合うだけの作付面積の削減ができなかったこと、コメ価格センターの入札制度の改定による実質の下限価格が撤廃されること等により、コメ価格センターでの落札価格は前年産を大幅に下回ることとなりました。これを受けて農水省が「米緊急対策」を発表・実施した結果、11月以降のコメ価格センターにおける入札価格は持ち直しましたが、販売競争の激化により販売価格の大幅な上昇を見込めないため、卸会社にとっては依然厳しい環境にあります。

当社グループにおきましては、玄米・精米の販売数量の拡大、製造コストダウン、販売並びに管理コストの削減、連結子会社の業績改善等に注力した結果、当連結会計年度における米穀事業の売上高は81,135百万円（前年同期比6.6%増）、営業利益は1,253百万円（同10.4%増）となりました。

鶏卵事業

鶏卵業界は、全国首位の茨城県の生産量が鳥インフルエンザの影響からほぼ回復し、他県も生産が好調で全国的に生産過剰の状況にあり、鶏卵年間平均価格は前期より下落している一方、穀物相場の高騰が配合飼料価格や生産コストの増加に繋がり、厳しい環境にありました。

当社グループにおきましては、付加価値の高い家庭用特殊卵の販売拡大、販売コストダウンの強化に注力した結果、当連結会計年度における鶏卵事業の売上高は6,514百万円（前年同期比2.9%減）、営業利益は132百万円（同11.8%増）となりました。

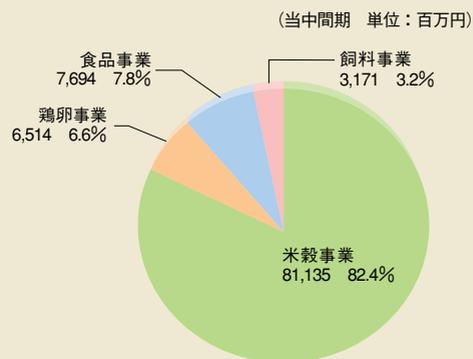
食品事業

製菓等の原料向けであるもち米粉、上新粉の販売は、引き続き既存取引先との深耕により好調に推移しました。また、植物性乳酸菌発酵技術によるたんぱく質調整米を使用した新商品の販売が順調に拡大し好調に推移しました。一方、主力の鶏肉販売は、ブランド鶏の偽装事件等の影響でトレーサビリティに関する意識が高まり、鶏肉相場は近年ない高値で推移しました。その他、惣菜販売は、製造工場がISO9001認証を取得し品質管理の強化を図る一方、製造・販売コストダウンに注力しました。この結果、当連結会計年度における食品事業の売上高は7,694百万円（前年同期比11.3%増）、営業利益は144百万円（同139.1%増）となりました。

飼料事業

飼料販売は、当社グループの主要販売先である鹿島地区での配合飼料生産量が前年を上回る水準で推移していたことに加え、調達に優位性がある糟糠類の販売が順調であったこと等により好調に推移しました。この結果、当連結会計年度における飼料事業の売上高は3,171百万円（前年同期比38.2%増）、営業利益は211百万円（同33.2%増）となりました。

連結売上高構成比



FINANCIAL DATA

連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

(単位:千円)

科 目	当 期		前 期	
	平成19年12月31日現在	平成18年12月31日現在	平成19年12月31日現在	平成18年12月31日現在
資産の部				
流動資産	15,890,346	15,432,647		
固定資産	9,727,738	10,242,882		
有形固定資産	7,556,835	7,683,344		
無形固定資産	140,140	260,654		
投資その他の資産	2,030,762	2,298,883		
資産合計	25,618,084	25,675,529		

科 目	当 期		前 期	
	平成19年12月31日現在	平成18年12月31日現在	平成19年12月31日現在	平成18年12月31日現在
負債の部				
流動負債	16,710,805	15,360,760		
固定負債	4,804,838	6,815,347		
負債合計	21,515,643	22,176,108		
純資産の部				
株主資本	3,529,883	2,849,055		
資本金	529,500	529,500		
資本剰余金	331,509	331,509		
利益剰余金	2,686,854	2,004,988		
自己株式	△17,979	△16,942		
評価・換算差額等	151,554	224,701		
その他有価証券評価差額金	157,595	226,891		
繰延ヘッジ損益	1,438	1,655		
為替換算調整勘定	△7,479	△3,845		
少数株主持分	421,002	425,663		
純資産合計	4,102,440	3,499,421		
負債及び純資産合計	25,618,084	25,675,529		

POINT

資産合計

当期末の総資産は25,618百万円、前期比57百万円の微減となりました。一方、負債合計は21,515百万円、主に買掛金等796百万円の増加、借入金等1,261百万円の減少により前期比660百万円の減少となりました。純資産は前期比603百万円の増加（利益剰余金681百万円増）により、4,102百万円となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期		前 期	
	自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日	自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日	自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日	自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日
売上高	98,515,994	92,000,293		
売上原価	92,175,703	85,675,248		
売上総利益	6,340,291	6,325,044		
販売費及び一般管理費	5,509,083	5,892,967		
営業利益	831,208	432,077		
営業外収益	250,875	257,513		
営業外費用	364,996	378,447		
経常利益	717,086	311,144		
特別利益	170,466	63,372		
特別損失	196,779	1,571,456		
税金等調整前当期純損益	690,773	△1,196,939		
法人税、住民税及び事業税	67,894	86,298		
法人税等調整額	△111,222	△77,396		
少数株主損益	18,296	6,608		
当期純損益	715,804	△1,212,449		

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科 目	当 期		前 期	
	自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日	自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日	自 平成18年1月1日 至 平成18年12月31日	自 平成17年1月1日 至 平成17年12月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,333,239	1,232,566		
投資活動によるキャッシュ・フロー	△294,216	△47,223		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,305,450	△1,828,006		
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,245	562		
現金及び現金同等物の減少額	731,327	△642,099		
現金及び現金同等物の期首残高	2,029,174	2,671,274		
現金及び現金同等物の期末残高	2,760,502	2,029,174		

連結株主資本等変動計算書(要旨)

(単位:千円)

当 期	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等				少数 株主持分	純資産 合計	
	自 平成19年1月1日 至 平成19年12月31日	資本金	資本剰余金	利益剰余金		自己株式	その他の有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定			評価・換算 差額等合計
平成18年12月31日 残高		529,500	331,509	2,004,988	△16,942	2,849,055	226,891	1,655	△3,845	224,701	425,663	3,499,421
連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当		—	—	△33,938	—	△33,938	—	—	—	—	—	△33,938
当期純利益		—	—	715,804	—	715,804	—	—	—	—	—	715,804
自己株式の取得		—	—	—	△1,037	△1,037	—	—	—	—	—	△1,037
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)		—	—	—	—	—	△69,296	△217	△3,634	△73,147	△4,661	△77,808
連結会計年度中の変動額合計		—	—	681,865	△1,037	680,828	△69,296	△217	△3,634	△73,147	△4,661	603,019
平成19年12月31日 残高		529,500	331,509	2,686,854	△17,979	3,529,883	157,595	1,438	△7,479	151,554	421,002	4,102,440

FINANCIAL DATA

単体財務諸表

単体貸借対照表 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当期		前期	
	平成19年12月31日現在		平成18年12月31日現在	
資産の部				
流動資産	11,872,571	10,029,567		
固定資産	7,978,825	8,103,228		
有形固定資産	5,021,346	4,863,734		
無形固定資産	102,638	198,489		
投資その他の資産	2,854,840	3,041,005		
資産合計	19,851,397	18,132,796		
負債の部				
流動負債	12,834,459	10,517,719		
固定負債	3,767,374	5,156,597		
負債合計	16,601,833	15,674,316		
純資産の部				
株主資本	3,093,895	2,235,703		
資本金	529,500	529,500		
資本剰余金	331,509	331,509		
利益剰余金	2,250,866	1,391,636		
自己株式	△17,979	△16,942		
評価・換算差額等	155,667	222,776		
純資産合計	3,249,563	2,458,480		
負債及び純資産合計	19,851,397	18,132,796		

単体損益計算書 (要旨)

(単位:千円)

科 目	当期		前期	
	自平成19年1月1日 至平成19年12月31日		自平成18年1月1日 至平成18年12月31日	
売上高	77,483,595	68,544,738		
売上原価	73,874,528	65,057,654		
売上総利益	3,609,067	3,487,083		
販売費及び一般管理費	2,958,504	3,020,994		
営業利益	650,562	466,088		
営業外収益	209,349	248,500		
営業外費用	364,567	382,491		
経常利益	495,344	332,098		
特別利益	411,468	2,732		
特別損失	38,609	1,523,092		
税引前当期純損益	868,202	△1,188,261		
法人税、住民税及び事業税	4,821	2,027		
法人税等調整額	△29,788	△87,614		
当期純損益	893,168	△1,102,674		

配当について

期末配当金は1株につき2円の普通配当、当社創業125周年に伴う記念配当2円の計4円とし、中間配当金2円と合わせて年間配当金は1株につき6円となりました。

単体株主資本等変動計算書 (要旨)

(単位:千円)

当 期	自平成19年1月1日 至平成19年12月31日	株主資本										評価・換算差額等			純資産 合計		
		資本剰余金				利益剰余金						自己 株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金		繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計
		資本金	資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	固定資産 圧縮積立金	その他利益剰余金 別途積立金	繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計							
平成18年12月31日	残高	529,500	331,500	9	331,509	114,146	605,877	1,030,000	△358,386	1,391,636	△16,942	2,235,703	220,092	2,684	222,776	2,458,480	
事業年度中の変動額																	
	剰余金の配当	-	-	-	-	-	-	-	△33,938	△33,938	-	△33,938	-	-	-	△33,938	
	当期純利益	-	-	-	-	-	-	-	893,168	893,168	-	893,168	-	-	-	893,168	
	自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△1,037	△1,037	-	-	-	△1,037	
	圧縮積立金取崩	-	-	-	-	-	△30,064	-	30,064	-	-	-	-	-	-	-	
	株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額 (純額)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△66,343	△765	△67,108	△67,108	
	事業年度中の変動額合計	-	-	-	-	-	△30,064	-	889,294	859,229	△1,037	858,191	△66,343	△765	△67,108	791,083	
平成19年12月31日	残高	529,500	331,500	9	331,509	114,146	575,812	1,030,000	530,907	2,250,866	△17,979	3,093,895	153,748	1,919	155,667	3,249,563	

CORPORATE DATA

■ 会社概要 (平成19年12月31日現在)

商号 木徳神糧株式会社
事業内容 米穀事業、海外事業、飼料事業、
 コメ加工食品事業
本社所在地 〒132-0015
 東京都江戸川区西瑞江2-14-6
 TEL：03-5636-1501 (代表)
 FAX：03-5636-1601
資本金 5億2,950万円
従業員数 154名 (臨時雇用者を除く)

■ 事業所一覧 (平成19年12月31日現在)

本店 東京都中央区銀座
本社 東京都江戸川区西瑞江
東北支店 宮城県仙台市
関西支店 滋賀県東近江市
桶川工場 埼玉県桶川市
本牧工場 神奈川県横浜市
仙台工場 宮城県仙台市
新潟工場 新潟県阿賀野市

木徳神糧からのお知らせ

アンケートのお願い

当社では、株主の皆さまの声を数多くお聞きするため、アンケートを実施させていただいております。お手数ではございますが、同封のアンケートハガキにご記入いただき、ご投函ください。結果は次回の株主通信誌上にてご報告いたします。ご協力お願いいたします。

■ 役員 (平成20年3月28日現在)

取締役・監査役

取締役会長 木村 良
代表取締役社長 平山 惇
専務取締役 松山 正吉
常務取締役 山本 幸雄
取締役執行役員 水野 正夫
取締役執行役員 伊豫田 直記
常勤監査役 高橋 健治
※ 監査役 松下 守
※ 監査役 杉野 翔子

執行役員

上席執行役員 天川 誠
上席執行役員 小森 浩資
執行役員 中村 義博
執行役員 三澤 正博
専任執行役員 稲垣 英樹
専任執行役員 鎌田 慶彦
専任執行役員 竹田 光男
専任執行役員 佐藤 善雄
専任執行役員 石田 俊幸

※印は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

ホームページをリニューアルしました

当社ホームページでは、株主・投資家の皆さまに対して、企業情報や財務情報をはじめとして、事業活動やその動向を紹介しております。当社をよりご理解いただくためにも是非アクセスしてください。



<http://www.kitoku-shinryo.co.jp>

株式の状況 (平成19年12月31日現在)

- (1) 発行可能株式総数 30,000,000株
 (2) 発行済株式の総数 8,530,000株
 (3) 株主数 1,549名
 (4) 大株主

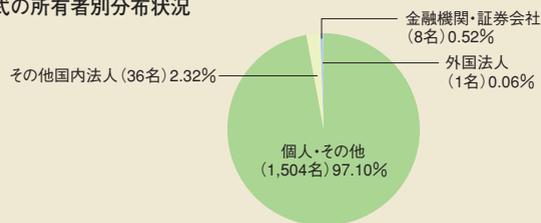
株主名	持株数	出資比率
木村謙三	405千株	4.75%
木村良	324	3.80
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.52
木村友二郎	243	2.85
稲垣辰彌	230	2.70
濱田精麦株式会社	218	2.56
水野正夫	214	2.51
木徳神糧従業員持株会	205	2.41
株式会社三井住友銀行	186	2.18
農林中央金庫	186	2.18

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
 2. 出資比率は、小数点第3位を四捨五入で表示しております。

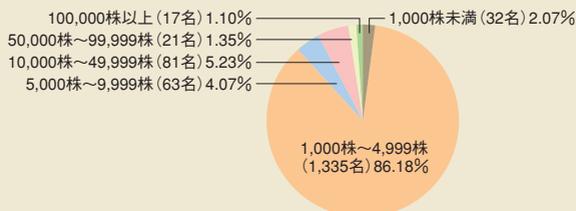
株主メモ

- 事業年度 1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会 毎年3月に開催いたします。
- 基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
- 配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払いを行うときは6月30日
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
- 同事務連絡先 〒137-8081
(郵便物送付先) 東京都江東区東砂七丁目10番11号
(お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
- 同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国各支店
- 公告方法 日本経済新聞

株式の所有者別分布状況



株式の所有数別分布状況



(届出諸事項についてのお知らせ)

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求及び買増請求に必要な各用紙及び株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-244-479で24時間承っておりますので、ご利用ください。